

「江蘇大学研修参加報告書」

京都大学文学研究科1年 川口美柚

本研修旅行を通じて印象に残ったことは、中国江蘇大学の教育水準の高さであった。今回、江蘇大学文学科外国語学院と京都大学文学研究科のそれぞれの学生が自身の研究内容を発表し、質疑応答を通じて互いの研究の質を高めあうワークショップを行った。江蘇大学文学科外国語学院所属学生の研究内容は言語学的手法を用いた研究が多く、私自身の研究分野とは異なる範囲の研究について触れる機会を持つことが出来たのは非常に有益であった。また江蘇大学の学生に対して京都大学の学生が自身の研究内容を紹介したことで、互いの研究内容や研究手法について関心を抱くこととなり今後の研究の参考にもなったのではないかと感じた。

研究発表のワークショップを経た後、江蘇大学の学生に江蘇大学構内を案内していただき、大学校舎、学生らの生活する寮、図書館、食堂などを見学した。更にその後杉本淑彦先生のご講演を拝聴したほか、江蘇大学で勤務する岡内一樹先生の日本語の授業にも参加させていただき、実際に授業で学生らと直接交流する機会を持つことができた。江蘇大学文学科外国語学院の学生の日本語能力は非常に高かったため、京都大学側の学生は日々の意思疎通に何ら支障をきたすことが無く、数日間という短期間ではあったが互いに友情を深めることが出来た。また特に思い出深いのは江蘇大学の教員・学生が非常に熱心に我々を歓待してくださったことであり、ご厚意を感じて心を動かされる場面が多かった。

互いの国に対して抱く日中両国の国民感情が否定的なものへと変化し、東アジアを取り巻く国際情勢に劇的な改善の兆しが見られない現在の状況を考慮しても、日中国際交流としての大学同士の交流事業、日中の教員・学生らの文化交流事業は大いに意義があると感じた。今回の文化交流を通じて、京都大学・江蘇大学双方の学生は互いの研究や大学生活、また互いの文化に関する理解を大いに深め、生身の人間同士の付き合いを経て確かな友情を築くことができた。このような交流は日中の学生同士の相互理解を促すだけでなく、将来の日中共同学術研究の可能性にも道を開くものであると感じる。今回の文化交流をきっかけに、今後も京都大学と江蘇大学の交流事業が継続されることを願っている。